

調査結果！

アンケート配布

沖縄県内にある小学校256校の4、5、6年生
49,204人(2024年4月1日時点)

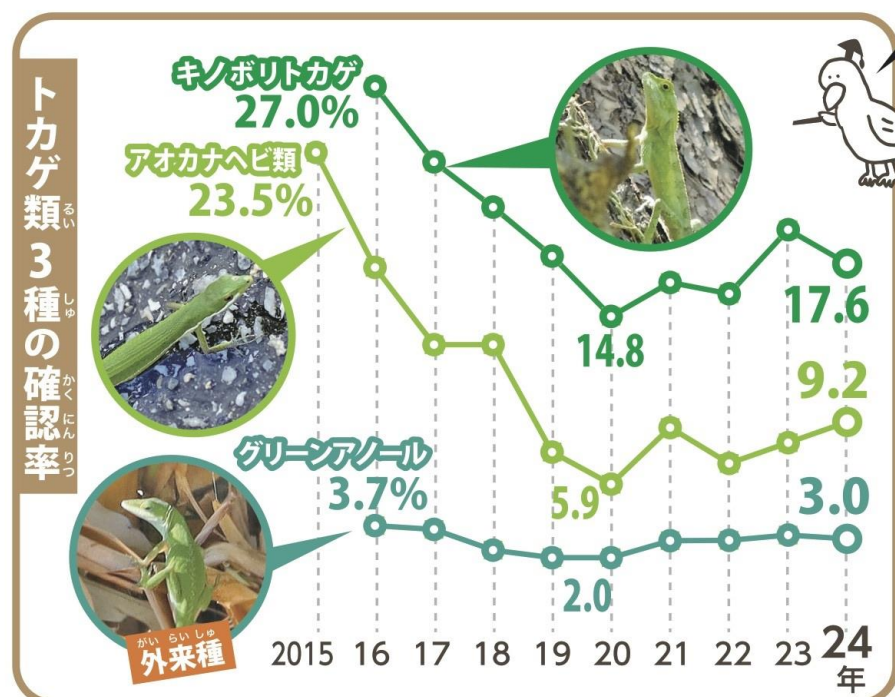
回答があった

学校数 70校(67) 児童数 4,337人(4,051)

※()は
前年2023年

2024年の調査でわかったこと

全回答数に対する見つけた回答数の割合(確認率)



2015年と2024年を比べてみて



琉球大学戸田先生からのメッセージ

身近なキノボリトカゲやアオカナヘビは、実は、世界でも琉球列島にしかない固有種です。現在、人間活動の影響で、これまでにないスピードで生物の大量絶滅が進行していると言われていますが、実際に絶滅してしまった種の3/4は島の固有種であるという報告があります。沖縄のトカゲがそうならないよう、みんなが関心を持っていくことが大切です。私が沖縄の爬虫類を見るようになった過去30年間でトカゲ類は間違いなく減っています。日頃トカゲやカエルのことなど気にする機会が少なくなっているみんなのお父さん、お母さんも、子供のころを思い出せば、「昔はもっといたのに」と感じるに違いありません。そう感じることができるのは、その世代の人たちが子供のころにトカゲをたくさん見ていたからです。このまま時代が進んで、子供のころにさえ虫やカエル、トカゲを見て、あるいは捕まえて遊んだ経験がない人ばかりになってしまったら、誰が、カエルやトカゲと共存できる環境を取り戻そうと考えることができるでしょう。初回の「いっせい調査」に参加してくれた人はもう大人になっているはず。多くの人が「あのときアオカナヘビを見つけてうれしかったな」と振り返ることができる「いっせい調査」であり続けてほしいと思います。

ろにトカゲをたくさん見ていたからです。このまま時代が進んで、子供のころにさえ虫やカエル、トカゲを見て、あるいは捕まえて遊んだ経験がない人ばかりになってしまったら、誰が、カエルやトカゲと共存できる環境を取り戻そうと考えることができるでしょう。初回の「いっせい調査」に参加してくれた人はもう大人になっているはず。多くの人が「あのときアオカナヘビを見つけてうれしかったな」と振り返ることができる「いっせい調査」であり続けてほしいと思います。

結果について

「生きものいっせい調査」が開始されて10年。近年キノボリトカゲについては回答者の約15~20%、カナヘビ類については約6~9%が野外で見つけたと報告がありました。この数字は、参加者た

ちがどの程度熱心にトカゲ類を探したかということや、どの地域の小学校から回答が多かったかといったことにも影響を受けています。そのため、これが単純にトカゲ類の生息数を反映しているとはいいきれません。特に、開始後数年は回答する学校数が少なかったりしたため、結果の解釈には注意が必要です。これからさらにデータを積み重ね、地域別の回答者数とそれに占める「トカゲを見た」という人数の変化を比べて、トカゲの生息数の移り変わりが分かるようになればと思います。

みなさんに「いっせい調査」に参加してもらうことは、これからの島々のトカゲ類が住む自然環境を守って行くことに繋がります。調査を通して、みなさんに身近な動物や植物にもっと関心を持ってもらえるようになることを期待しています。

去年のアンケート結果でいろんな事がわかったよ
2025年も調査をします！ぜひ参加してね！

